

私の 随想録



今回のライター

安沢 耕一さん

— Kouichi

(松沢)

— Anzawa —



14年続けている消防団活動。安沢さんは白沢第6分団の機関長として、地元・松沢を火災・災害から守っています。



「郷土愛」

私は松沢の地で幼少期から現在まで生活してきました。

白沢村から本宮市に変わりはしましたが、自然豊かで住みやすく隣近所の温かい輪のある環境は今も変わっていません。祖父母から親へとつないできたこの郷土を私も子どもたちへとつないでいきたいと思えます。

そつした志のもと、地域貢献の1つの手段として、消防団への入団がありました。私は22歳で入団し今年で14年目に入りました。右も左も分からなかった新入団員時から1年2年と、訓練を積み、また、火災現場での経験や台風などの自然災害での経験を重ね、少しずつではありますが、「消防団員として成長できているかなあ」と思っています。

そんな中、東日本大震災から今年で5年が過ぎ、今年の3月11日に浪江町で行われた浪江町消防団と本宮市消防団の「行方不明者合同捜索」に私も参加させていただきました。

きました。自分の足で沿岸部の現状を見て感じる事ができ、改めて震災と津波被害の大きさを思い知らされました。また、震災時に、地域住民のために我が身も顧みず消防団員の使命を全うし続けた皆さんのことを思うと言葉では

言い尽くせぬ思いがこみ上げてきます。私も郷土を愛する心は同じです。消防団員として法被^{はっぴ}をあずかった以上は、日頃の訓練に精進し、一消防団員としての志をもつて、松沢地区また本宮市からの火災・災害ゼロを目標にこれからも努めてまいりたいと思っております。

＼ 8月号は私が書きます！ ／



次回は遊佐隆信さん（本宮）です

し ← ち ← わ ← の ← た ← も ← こ ←



原案：あだち地方地域自立支援協議会
生活支援部会

イラスト：さくらさら

～聴覚障がいを持つ人に出会ったら～



※障がいは多種多様であり、同じ障がいでも一人一人状態が違います。このマンガの内容は一例です。



生活支援部会
梁取 夕季さん

聴覚障がいとは、「聞こえにくい、または聞こえなくなっている状態」のことです。
見た目では分かりにくく、障がいの程度もさまざままでコミュニケーションの障がいとも言わ

れます。また、一人一人、聞こえ方もコミュニケーションの仕方も異なっています。手話、筆談、身振り手振り、表情、空書き、口話や読話（口の動きを読む）、携帯電話やスマートフォンなどを利用するなど、さまざまな方法でコミュニケーションを取ることができます。また、話す相手や場面によって複

数の手段を組み合わせた使用分けたりします。まず、聞こえない・聞こえにくいことを想像してみてください。そして、コミュニケーションをとる場合は、相手と目を合わせて分かりやすくはつきりと話し（書き）始めてみてください。伝えよう、分かるうとする気持ちがとても大切です。

あだち地方地域自立支援協議会とは？

本宮市・二本松市・大玉村の2市1村で構成され、地域の障がい福祉に関わる関係者の連携や支援体制などについて協議を行う会です。

問 社会福祉課 社会福祉係 ☎ 24-5371



斎藤信也さん・里奈さん

旦那さんは大玉村、奥さんは二本松市出身。糠沢在住。入籍したばかりの新婚カップルです。結婚を機に本宮市に移住しました。

移住・定住ポータルサイトでは、本宮市内の不動産や仕事、子育て情報、移住者の声などを掲載しています。
<http://www.city.motomiya.lg.jp/site/teijyu/>



■結婚を機に本宮に

大玉村、二本松市出身の私たちは、結婚を機に家を建てる場所を探していたところ、本宮の

■移住を考える人への

アドバイス

今の土地を見つけました。5月に入籍し、今新居に引っ越し作業を進めています。本宮は子育て環境が充実していますね。子どもの頃、みずいる公園に遊びに来ました。スーパーなどお店が多

くあるのも魅力です。また、どこに行くにも交通の便がいいです。
結婚する前は市外のアパートにいましたが、夜の騒音に悩まされることもありました。今の場所はとても静かで満足しています。のんびりできるので子育てするにも良い環境だと思いますよ。